

表 1

令和元年度 中部地方整備局入札監視委員会
第一部会 第2回定例会議審議概要

開催日及び場所	令和元年9月30日(月) 15時00分～17時00分 名古屋合同庁舎第2号館 3階 共用大会議室	
委員	部会長：永田和寿 (名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授) 委員：大島嘉秋 (公認会計士) 小島淳 (名古屋大学 大学院 法学研究科 教授) 中村麻理 (名古屋文理大学 健康生活学部 教授) (委員は五十音順)	
審議対象期間	平成31年4月1日～令和元年6月30日	
抽出案件	総件数 7 件	審議案件は「表2」のとおり
【工事】		
一般競争入札方式 (拡 大)	2 件	
【建設コンサルタント業務等】		
一般競争入札方式	3 件	
指名競争	1 件	
【役務の提供等及び物品の製造等】		
一般競争入札方式	1 件	
委員からの 意見・質問、 それに対する 回答等	意見・質問	回 答
	「表3」のとおり	「表3」のとおり
委員会による 意見の具申 又は勧告の内容	なし	

表 2

抽出事案一覧表

(期間:平成31年4月1日～令和元年6月30日)

【工事】

番号	工事名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
1	(一般競争入札方式:拡大) 平成31年度 富士維持管内維持修繕工事	維持修繕	1	1	H31.4.1	遠藤建設(株)	199,650	99.90	静岡国道事務所(分任官契約)
2	平成31年度 19号神戸視距改良工事	一般土木	1	1	R1.5.16	大宗土建(株)	253,880	99.12	飯田国道事務所(分任官契約)

【建設コンサルタント業務等】

番号	業務名	業種区分	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
3	(一般競争入札方式) 平成31年度 浜松管内防災点検業務	土木コン	1	1	R1.5.31	アジア航測(株)	24,991	80.46	浜松河川国道事務所(分任官契約)
4	平成31年度 豊田地区水文調査業務	地質調査	5	5	H31.4.11	(株)建設技術研究所	17,550	84.50	名四国道事務所(分任官契約)
5	平成31年度 中部地整管内iCon普及支援業務	土木コン	1	1	H31.4.18	平成31年度 中部地整管内iCon普及支援業務 先端建設センター・中地協設計共同体	23,544	97.19	中部技術事務所(分任官契約)

番号	業務名	業種区分	指名業者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
6	(指名競争入札方式) 令和元年度 単価契約富士砂防管内境界杭設置及び図面修正業務	補償コン	15	15	R1.6.11	富士設計(株)	4,564	77.71	富士砂防事務所(分任官契約)

【役務の提供等及び物品の製造等】

番号	業務名	業務分類	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
7	(一般競争入札方式) 平成31年度 特定建築物等環境衛生管理業務(木曽下)	役務の提供等	1	1	H31.4.1	三和テクノ(株)	1,663	54.92	木曽川下流河川事務所

表 3 委員からの意見・質問、それに対する回答等

(1) 報 告		
①工事に係る入札方式別発注工事一覧 ②建設コンサルタント業務等に係る入札方式別発注業務一覧 ③役務の提供等及び物品の製造等に係る入札方式別発注業務一覧 ④談合情報等の対応状況 ⑤指名停止等の運用状況一覧表 ⑥再度入札における一位不動状況 ⑦低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況 ⑧一者応札の発生状況 ⑨不調・不落の発生状況 ⑩高落札率の発生状況		
	意見・質問	回 答
	なし	

(2) 審 議		
会議の審議対象案件は、当番の委員が入札契約方式別に事務所毎の審議実績及び工事種別等を考慮したうえで抽出したものである。		
抽出案件名	意見・質問	回 答
1. 平成31年度 富士維持管内維持修繕工事	「同種又は類似工事の入札状況」を見るとH30年度も同じ業者が受注しているが、それ以前の状況はどうなっているのか。	H21年度から同じ業者が受注している。
	「同種又は類似工事の入札状況」の中には本工事の受注業者と異なる業者もいるが、場所が違うのか。	静清地区は西から3地域に分割して発注しており、名前の出た3者はそれぞれの地域を受注している。
	競争性が働かないのはなぜか。	この地域は雪も多く、通行規制が生じるなど特殊な地域であり、業者は資機材を抱える必要もあるため敬遠されるのではと推察する。
	H21年度から同じ業者が受注しているということだが、落札率はいつも高いのか。99%と高いのは今回だけか。	過去5年間を見ると、落札率は95%を超える状況である。
	今回の落札率99%はやはり高いのか。	過去から入札に参加している業者であること、積算の考え方が明確であることなどから、だんだんと高落札率になって来ているのではないかと推察する。
	参加要件を満たすものは何者いるのか。	同種工事の設定条件で45者を確認している。
	45者いて、参加者は1者になるのか。参加者を増やす改善策はあるのか。	今回、入札参加要件の同種工事の見直しを行い、従前は類似工事としていたものを同種工事とした。これによって類似から同種となった業者の参加意欲を高めることを図ったが1者だった。引き続き競争性を高める工夫を考えていきたい。

抽出案件名	意見・質問	回 答
2. 平成31年度 19号神戸視距改良工事	H29年度も同じ業者が受注しているが、それ以前も同様の工事があったのか。あったとすれば、その時の受注者はどこか。	当該工事はH29年度から実施しており、それ以前の工事はない。
	H29年度の工事とH31年度の工事は、連続性があるのか。	H29年度の工事はH31年度の工事の準備工的なものであり、樹木の伐採、土砂の防護工、工事用搬入路の整備などを行っている。
	H29年度は落札率が92%、H31年度は99%と上がっている。予定価格が想定できるものなのか。H29年度は競争があったのか。	H29年度は参加者が6者いた。H31年度の工事は主工事が土砂掘削工事であり、公表されている工事歩掛や単価を使用した積算を行っているため、予定価格との乖離が少なくなったものと推察する。
	H29年度は6者から手が上がり、今回は1者となった理由をどのように考えるのか。	H31年度の工事は、同時期にたくさんの工事を発注したのでその影響もあったのではないかと推察する。また、当該工事については、現道直近の工事であり、現道への交通の影響、掘削工事の安全管理など施工条件が厳しいことが危惧されて敬遠されたのではないかと推察する。
3. 平成31年度 浜松管内防災点検業務	本業務の予定価格は見積もりによるものなのか。	標準歩掛によるものと見積もりによるものを組み合わせている。
	80%という落札率は妥当なのか。一者応札でなぜ落札率が低いのか。	結果的にずっと同じ業者が受注しているが、応札者としてはH31年度以外は3者の応札となっている。76%～86%という落札率については業務の受注意欲の高さによるものと推察する。
	今回だけ1者となった理由は。	参加可能な者は、同種・類似業務併せて49者おり、入札説明書をダウンロードした者も24者いる。これらの者が何らかの企業判断で参加しなかったといえるが、その理由まではわからない。
	毎年同じ業者が受注しているが、この業務は他の業者でも実施可能なのか。	点検もマニュアルによるものであり、同種・類似の経験があれば、他の業者でも実施可能な業務である。
5. 平成31年度 中部地整管内iCon普及支援業務	業務名と同じ名称の共同企業体が受注しているが、この団体はどのような団体なのか。この団体の他に競争のできる者はいるのか。	他に競争出来る者については、参加可能な者は68者おり、理論上は68者参加することは可能である。入札説明書をダウンロードした者も19者いるが、結果的に参加者は1者となった。設計共同体に関して、この業務は単体企業だけでなく、設計共同体にも参加を認めている。そのやり方については、別途共同企業体としての応募要件に関する公示に定める条件で認定されている。今回の設計共同体は、一般財団法人 先端建設技術センターと一般社団法人 中部地域づくり協会の2者で構成されているが、先端建設技術センターは、新技術の活用、先端的な技術の活用に関して横断的かつ先進的に取り組んでいる者であり、中部地域づくり協会は、中部の地域づくりに関する業務に強く、それぞれの特性を生かして、設計共同体を結成して参加してきたと理解している。
	同種又は類似工事の入札状況を見ると、H28年度から毎年同じ設計共同体が受注しているが、このときの競争状況は。	H28年度は2者参加しており、もう1者は単体のコンサルタント会社であった。H29年度以降は一者応札となっている。
	i-conという新しいことをやろうとすると、同じ者だけがやっても新しい考えは生まれてこない。違う分野から入ってこないとなかなかアイデアが出てこない。ITの会社は入ってこないのか。	参加資格の登録をした上で参加要件を満たせば入ることは可能だといえるが、建設特有の部分もあると思うので敬遠しているのではないかと推察する。

抽出案件名	意見・質問	回答
6. 令和元年度 単価契約富士砂防管内境界杭設置及び図面修正業務	今回15者指名されているが、指名するしないを分けたのはどこか。	指名競争の場合、指名する者は10者程度を基本としているが、今回は評価の点数が同点の者が15者いたことから、15者を指名した。
	評価に差がつきやすい要素はあるのか。同じ評価をしていけば同じ者ばかり指名することにならないのか。	差がつくのは③優良業務の表彰の有無や⑥地域精通度のところで、業務をやったことがあるかないか、これは国だけではなく県も含めてだが、過去の実績等で点数は変わってくる。
	今回は業務実績で大きな違いが出たと思うが、業務実績であれば、今回指名から外れた者も実績を上げれば、入ってくることは可能ということか。	ご指摘のとおりである。
	今回、指名競争方式とした理由は。	業務が定型的なものであり、提案してもら要素がないということ、発注金額が小規模なことから指名競争とした。
7. 平成31年度 特定建築物等環境衛生管理業務(木曾下)	落札率が非常に低いのが、何か要因があるのか。	落札率が低いのは競争原理が働いている結果ではないかと推察する。予定価格の設定に当たっては、一般的な方法として参考見積書を徴収してそれを参考に設定している。
	参考見積書をもらうのは受注者のみなのか。	今回は一者応札であったため受注者のみである。
	なぜ、参考見積書よりもかなり低い価格で応札しているのか理解できない。他社から見積もりをとることも可能なのか。そういう業者はいないのか。	本事案のように長年にわたり予定価格と落札額に大きな乖離があるものについて、そもそも予定価格の算定が適切なのかという趣旨の質問と解する。 本業務の予定価格については、当方において標準的な歩掛、単価等がないため、参考見積書を徴収して算定することになるが、その金額の妥当性については、実際に市場で取引されている実勢価格を条件とした見積書を複数者から徴収するなどして検証し、より適切な予定価格を定めるようにしていきたい。